

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成20年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2870801236		
法人名	社会福祉法人 明進會		
事業所名	たるみグループホーム		
所在地	(〒 655-0892 ) 兵庫県神戸市垂水区平磯4丁目5-13		
	電話	078-707-5888	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成20年10月31日	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】 [平成20年10月11日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	3ユニット (利用定員…計27人)		
職員数	30人	(常勤17人) (非常勤13人)	/ 常勤換算19.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	地上5階建て建物の 3階～5階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	北側45,000円・南側50,000円	その他の経費(月額)	30,000円	
敷金の有・無	有り (300,000円) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り ( 円) ・ 無し	(保証金有りの場合)保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	600円	おやつ	200円
	または、1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (平成20年10月11日 現在)

利用者人数	計27名 … (男性2名) (女性25名)		
要介護1	7名	要介護2	10名
要介護3	6名	要介護4	2名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均85.4歳 … (最低75歳) (最高98歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸掖済会病院 神戸徳洲会病院 武内歯科 杉本歯科 やまぐちクリニック
---------	-------------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地にあり、駅からも近く(JR・山陽「垂水」駅から徒歩2分)、ホームの暮らしにも、家族などの来訪にも、たいへん便利。建物の1階は保育園、2階は通所介護事業所になっており、《幼・老一体》の生活環境も、このホームの大きな特長である。ユニットごとに利用者のADLや意向を把握し、個性を尊重した支援が実施されており、職員の援助技術にさまざまな工夫がみられる。利用者に季節の移り変わりを実感してもらえるよう、屋上には庭園・家庭菜園を作り、そこから見渡せる神戸の街並みも心地良く、皆の「憩いの場」になっている。「社会的生活をおくるための支援」として、商店街や大型商業施設へ散歩・買物に出掛けることも日常行なわれ、また、「楽しみごとへの支援」として、ほぼ毎月のペースでボランティアを受け入れるなどしている。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①「地域の方が気軽に立ち寄れる」ホーム作りを目指し、ホーム主催のイベントを検討中。②運営推進会議には、民生委員や地域住民も参加している。③第三者評価の結果を運営推進会議の議題としてあげ、討議するようになった。④医療に関しての施設内研修を毎月実施するようになった。⑤家族の意見のより良い聴取方法を検討中。⑥同業者のネットワーク作りも検討中。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4) フロアごとに職員が意見を出し合いまとめ、これをフロア長による会議で検討したうえで、総括リーダーが集約した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、利用者、利用者家族、地域包括センター職員、民生委員、地域住民、ホーム職員などが参加し、概ね2か月に1回開催されている。同じ日に家族会も開催されることから、家族は会議へ出席しやすく、ホームとしては家族からの意見を多く聴き出している。会議では、ホームの近況報告、地域情報の交換、第三者評価をきっかけにした改善点などが話し合われ、活発な意見交換がなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 利用者の日々の様子は、利用者個々への「お便り」を通じ、毎月報告している。家族の訪問の機会も多く、ホームへの意見や要望を聴き、ホーム運営の改善に繋げている。家族からの意見をより引き出しやすくする工夫として、家族会を「家族の主権」にするなどの方法も検討中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域の自治会に加入し、地域の行事はできる限り利用者とともに参加している。区役所内のギャラリーに利用者や職員の作品を出展したり、施設長がキャラバンメイト(認知症サポーター養成研修講師)として地域へ出向いたり、地域へのアプローチを積極的に行なっている。近隣の方々とも地域住民としての自然な付き合いがなされ、また、散歩や買物の際も地域との関わり(ふれあい)を大切にしている。

◎家族等への報告

各階の入口に行事の予定表を掲示  
(来訪者にもホーム行事を知っていただけ)



◎食事を楽しむことのできる支援

おやつ作りも協働で…



◎運営に関する家族等意見の反映

エレベータ内にもご意見箱を設置



◎その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

看護師とのボール遊びはADLの把握に役立て…



入院中の利用者へ千羽鶴を…





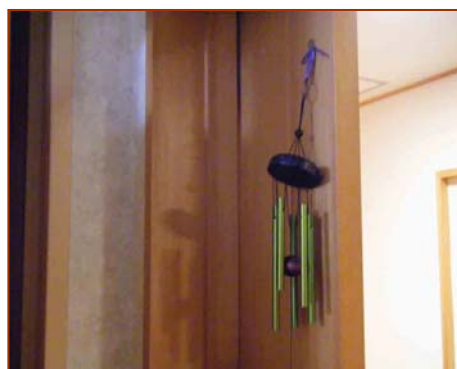
▲ 居心地の良い共用空間づくり  
大きなテーブルを囲み、皆で食事を楽しむ…



▲ 入居者ごとにアルバムを作成



▲ プライバシー確保の徹底  
浴室ドア開閉時の配慮としてカーテンを…



▲ 安全確保 (居室にベルを設置)



▲ 安全確保 (要所に手すりを設置)



▼リビング（温かな雰囲気作りがなされている）



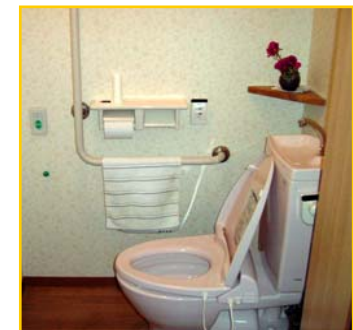
▲ホーム外観（「幼・老一体」の福祉に取り組む…）



▲散歩に出掛ける「海(かい)神社」…ホームの隣りにある



▲居室フロア（エレベーター前にも、くつろぐスペースを確保）



▲各居室にもトイレを備える

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでの生活を在宅生活の延長と捉え、「察し合い、飲み合い、折れ合い、合わす」を運営理念とし、利用者それぞれの生活暦を理解したうえで、地域の中での暮らしを支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新任研修では理念学習を実施している。職員は、常に理念に沿ったケアの実践を強く心掛けている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣り近所とは日常的に付き合いがなされている。地域自治会に加入し、地域行事にも出来る限り参加している。地域包括センター主催の介護教室など学習会の場所としてホームを開放(提供)してもいる。	○	地域の方が気軽にホームへ気軽に立ち寄れるよう、ホーム主催のイベント(介護教室…等)を行なうなどしていただき、地域交流をさらに進めていってほしい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価と第三者評価の意義を全職員が理解しており、前回評価による「取り組みを期待する内容」とされた事柄については、年間事業計画や目標にあげ、努力して取り組んでいる。評価結果は、運営推進会議でも議題として取り上げ、家族にも報告している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの近況報告の他、地域情報の交換、第三者評価の改善点などを取り上げ、活発な意見交換がなされ、ホーム運営に活かしている。また、会議の議事録を家族に送付し、報告している。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の運営について疑問点などがあるときは、事業所の独断を避け、適宜、行政に相談している。施設長は、市の介護保険課の依頼を受け、キャラバンメイト(認知症サポーター養成講師)として地域の養成講座に出向き、認知症ケアの周知活動に尽力している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「ホーム便り」のほかに、毎月1回、家族に利用者それぞれの暮らしの様子を「お便り」にして知らせて、また、家族の来訪時にもその都度伝えている。金銭管理も毎月欠かさず行なっている。各階の入り口に月間の行事予定ボードを掲示し、家族が訪問した際にも、ひと目でホームの行事が把握できるようにしている。	○	新入の職員に関しては、家族との馴染みの関係づくりに向け、家族とのコミュニケーションのとり方に工夫をお願いしたい。職員の退・入職のお知らせは、ホーム便りへ掲載し、ホーム内にも掲示している。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価時の家族アンケート、ホーム独自で行なうアンケートのほか、来訪時にも要望や意見を聴き取っている。それらの家族意見は運営推進会議などで取り上げ、運営に活かしている。エレベーター内にも、「気づきBOX」(ご意見箱)を設置した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は最小限に抑え、利用者のケアへの影響が無いよう配慮している。	○	業務の引継ぎ時においての利用者情報が正確に伝わるよう、さらに努めてもらいたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の研修に積極的に参加し、また、外部研修への参加も、ホームとして促している。ホーム内部でも年間計画を立て、資質向上の為の研修を毎月行っており、OJTがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム運営者などによる意見交換による交流はなされているが、ホーム職員による相互訪問は行なっていない。	○	運営推進会議に参加した地域内グループホームとのネットワーク作りについて検討中とのこと、進めていってほしい。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を希望する者の生活歴などの情報は、利用前に、本人や家族から収集し、ホームを利用している人との交流機会を積極的に持つことで、サービスを始めるにあたってのストレスを回避している。契約書類なども事前にお渡しし、一読してもらっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者がその人らしく生活できる場を提供し、個別に対応している。職員は、利用者が話しやすい雰囲気作りを心掛けており、日々の生活のなかで、利用者から調理や風習などを教わることも多い。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とはゆっくり話をする時間を持ち、本人の希望や意向を把握し、思いを尊重した支援をしている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と家族から要望を伺い、利用者の生活歴や身体状況に照らして職員間で話し合い、その人に合った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6ヵ月毎に、状態変化が生じた場合は随時に関係者と話し合い、見直しを行なっている。ケアカンファレンスについては、毎月1回、個別記録や連絡ノートを参考に行なっており、職員間で現状把握をしているが、プランに反映されていないのが現状である。	○	定期的な見直しをする期間の再考と、プランへの反映を早期に願う。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階の保育園との交流や2階サービスのイベント参加などを行なっており、ホーム外との関わりも多い。訪問理美容も利用している。		



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医や病院への受診支援を行っており、ホーム看護師を中心に、医師との連携も取れている。遠方での受診については家族に協力してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議において、ターミナルケアや医療体制について説明し、家族の理解を得ている。協力医療機関には事業所方針を説明している。終末期ケアの指針の同意書を家族と交わしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉掛けや対応については、各職員が利用者の人格を尊重し、プライバシーに配慮している。個人情報の取り扱いについても、職員の守秘義務を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各職員は、利用者それぞれの今までの生活環境やホームでの生活リズムを把握しており、それを大切に支援している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食を楽しむ」を基本に、カロリー計算されたメニューが提供されている。夕食は利用者と協働で調理している。週に2回は「自由献立」の日を作り、利用者と一緒に献立作りから行なう。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴を基本とし、体調に注意しながら、その人の希望に応じ支援している。“季節湯”を行なうなど「入浴の楽しみ」も心掛けている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の出来ること(家事など)を支援し、生活に張り合い・自信を持ってもらえるようにしている。ボランティアによる園芸、ヨガ、フラワーアレンジメントなどのサークル活動がほぼ毎月開催されている。生活機能訓練として、看護師や職員と一緒に、ホーム内でボール遊びや折り紙などをし、利用者のADL把握にも努めている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を汲み取り、それに沿えるよう心掛け、日常的に散歩や買い物に出掛けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム南側に交通量の多い道路があるので、安全確保のため、家族にも理解を得た上で施錠している。外出希望などに関しては、利用者それぞれの意向を察し、これを大切に個別に対応している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、保育園・サービスも含めた合同避難訓練(日中を想定)を行なっている。近隣の消防団にも災害時の協力を依頼している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大まかな摂取カロリーは把握されており、水分や食事が安定しない利用者や、医師の指示がある利用者については、チェック表によって細かく管理されている。毎月、サービスの管理栄養士、調理士、介護職員などで給食会議をし、メニューなどを検討している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの入り口やフロアには利用者による季節の壁画や、利用者の写真などが飾られ、明るい雰囲気になっている。家具の配置も、利用者それぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置く品々(家具など)は、家族の協力のもと、使い慣れたものを持参してもらうなどし、自室で落ち着いて過ごせるよう支援している。		

※  は、重点項目。